

## ♪「第4回 ぬくもりコンサート」 ぶらり訪問記・・・♪ 音楽センター 三多摩教室

12月6日(水)17:30開演 □入場無料

会場：国立市民芸術小ホール内スタジオ

(JR国立駅南口よりバス。JR南武線谷保駅  
又は、矢川駅から徒歩10分)

ゲスト:山田千賀子(独唱)

友情出演:遠藤 勇(アコーディオン)

:林 博太郎(ハーモニカ)



(写真は教室生全員による「歓喜の歌」ベートーベン)

■街路樹のいちよう並木もすっかり黄色に染まるなか、国立市民芸術小ホールを会場に音楽センターアコーディオン科三多摩教室が2年に1度開いているコンサートを聴きに行きました。

～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

■会場は、小ホールの中のスタジオで、固定椅子の後ろに予備の椅子を並べ100人ほどのこじんまりとした会場でした。スタジオだけに音響は良かった。受付の脇に置

かれた教室の代表者「菊地毅さん」の作品(写真の絵)が来場者をやさしく迎えていました。



■オープニングは「世界って広いわ」のゆったりと落ち着いた全員合奏ではじまった。次は重奏で「アベマリア」そして、「なお&とも」で同じみのデュオで「サンライズサンセット」とつなぐ。筆者もこの二人での演奏は幾度か聴いているが、なおさんの障害にめげない明るい性格と、アコーディオンで音楽



に向き合う真剣さに今回も背筋の伸びる思いでした。なお&とも→  
■続くのはこれもお馴染みとなった「ゼンザーズ」による演奏。最初に一人ずつ「中国地方の子守唄」、「ジェニリンドボルカ」、「アメリカンソングメドレー」と独奏し、ゼンザーズ生みの親で現在仙台アコーディオンサークルに籍を置き、友情出演されている遠藤氏を加えての四重奏。遠藤さんには、会場についてから譜面を渡したそうで

が、「東京と仙台とは離れていてもちゃんと心は通い合うんですね」とゼンザーズからのコメントが心に残りました。始めて2年目の男性の方は「Sing」を演奏、慣れない舞台上で心臓の動きが伝わってきましたが、テンポのよい演奏で客席から自然にハミングが出ていました。その後「花の街」など数曲をみんなで歌い休憩となった。

■二部は「パリの空の下」の立奏で始まる。演奏者石橋さんは立奏が板についてきた。続く「きらきら星変奏曲」はフーガの会のメンバーによる演奏。スローテンポ、ベースを効かせた演奏など全部で八つ位の変奏で楽しめました。

次は友情出演、仙台から参加されたアコーディオンとハーモニカによる演奏「詩人の魂」、こじんまりした会場とはいえ後ろまでよく通るハーモニカの音色が新鮮です。



■ゲストの山田千賀子さんは、教室の講師川口先生の伴奏で「宵待草」、「愛の賛歌」を独唱。素敵なたた声をも毎回楽しみに来ているという方もいました。その後も独奏が続きます。順番は前後しますが四重奏の「オブリビオン」はピーンと張りのある音がしっかり出ていてすてきな演奏でした。最後は、ベートーベンの「歓喜の歌」ポップス風にアレンジされていたのと、演奏者も少しほっとして力みが取れていたのか、音ものびのびして編曲のよさが十分に伝わってくる演奏で素敵なエンディングでした。

(文：乙津)

